

DVD(2010年度 購入分～)

○フェアトレード (42分 31秒)

フェアトレードとは強者・金持ちが優位に立ち、弱肉強食のルール現在の「アンフェアトレード」のシステムを改善し、みんなが幸せになれるようなシステムを作ることができないかという試みです。欧米を中心に急速に展開しています。フェアトレードの意義、歴史、展望などについて分かりやすく解説します。

○生物多様性 (42分 34秒)

2010年に名古屋で「生物多様性条約第10回締約会議」(COP10)が開催されるなど、「生物多様性」は注目を集めています。2010年は、国連の定めた「国際生物多様性年」であり、2002年のCOP6(オランダ・ハーグ)で採択された「締結国は現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という「2010年目標」の目標年にもあたります。生物多様性とはどういうことなのでしょうか。生物多様性の意味、現状、対策などについて分かりやすく解説します。

○中高生のための映像教室『憲法を観る』(99分) ガイドブックつき

この映像教材は中高生が憲法を学ぶ上で役立つものです。教科書の内容をふまえつつ、憲法の基本的な存在意義や役割を伝え、考えてもらう教材です。

第1章 自由に生きるって？—個人の尊重・自由権 第2章 こんなときどうしよう—卒業後、社会権
第3章 地元をつくる—地方自治 第4章 民主主義ってなに？—国会・内閣・裁判所
第5章 国を見張るの？—最高法規、立憲主義

○もし今、地震が起きたら～命を守る備えと退避行動～ (19分)

過去に起きた大地震の教訓をもとに、地震時の心得が伝えられてきました。しかし近年の地震被害に関する研究や、社会情勢の変化に伴い、それらの心得が現在でも有効かどうかの検証が進められています。

未曾有の大災害となった東日本大震災の経験も踏まえ、いま求められる地震時の心得への備えを考えます。

○3.11 東日本大震災から学ぶ 津波・命を守る心構え (20分)

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、想定外の巨大な津波を引き起こし、東北地方沿岸を中心に多くの死者・行方不明者を出した。この作品は東日本大震災津波取材し、津波という自然災害から命を守っていくためにはどのような意識を持ち、どのような行動をすべきかを考えるものである。小中学生600人が津波から逃げ切った「釜石の奇跡」はなぜ起こったか。釜石で長年防災の指導をしてきた片田敏孝教授にお話をうかがう。また、津波のメカニズムを解説し、津波から命を守る知恵を伝えていく。

○私らしくマイノリティを生きる 女性差別撤廃条約のいま (解説書付、前編字幕付)

2012年作品 20分 対象 中学生以上

この作品では、複合的な差別を乗り越えようとしている当事者の声を紹介。国連・女性差別撤廃条約を日本が批准しているという大きな社会的背景のもとでマイノリティがはたしている役割について語っている。

●シングルマザーで生きる ●性を越えて生きる ●マイノリティの声を政治に届ける ●マイノリティ女性、日本報告書審査の場へ ●条約実施を見つめる

○「わいわい ごちゃごちゃ」—多文化・多民族共生の街—

人権ってなあに—3 (在日外国人篇) (2000年) VHS・34分(カラー)

在日韓国・朝鮮人をはじめ、アジア系の人々が多く暮らす神戸市長田区。阪神淡路大震災をきっかけに「多文化・多民族のまちづくり」を合い言葉に「FMわいわい」が誕生した。ここでは若い世代が民族名を名乗ることの難しさ、定時制高校で教える在日教師の話など「在日」をめぐる様々なテーマをとりあげ、番組がつくられている。

神奈川県川崎市。ここでも民族差別と闘い、国籍による制限を撤廃する取り組みが積み重ねられ、人権確立に向けた街づくりが行われてきた。

この作品では、長田区と川崎市を舞台に在日韓国・朝鮮人の取り組みと、共に活動する日本人の姿を紹介。「在日」の歴史も織りませ、「わいわいごちゃごちゃ」—街に暮らす様々な民族の人たちが共に生きていくことの大切さを探ります。

○「風よ 雲よ 伝えてよ」—HIV/AIDSと共に生きる—

人権ってなあに—8 (AIDS篇) (2002年) VHS・38分(カラー)

HIV感染者は世界で4000万人、AIDSによる死者は毎年300万人に達しています。先進国といわれる国のなかで増加を続けている唯一の国が日本です。特に若者の感染者が急増しています。その背景にはHIV/AIDSに対する無理解や偏見があります。

AIDSの正しい知識、その普及や啓発を通して根深い差別と闘い、感染者と共に歩むHIVと人権・情報センターと若者たち。AIDSを発症したことで職場を追われながらも、「今が充実している」と語る感染者“のじやん”。同性愛者であること、感染者であることを公表し、当事者の立場から問題提起する大石敏寛さん。ビデオはそんな人たちの思いや活動を紹介し、HIV/AIDSと共に生きる社会について考えていきます。

○温もりある社会を ~野宿生活者とともに~

人権ってなあに—9 (野宿生活者篇) (2004年) VHS・40分(カラー)

全国の野宿生活者(ホームレス)は厚生労働省の調査だけでも2万5千人を超えます。企業の倒産、リストラ、そして雇用構造の変化などによるもので、その数は年々増加の一途をたどっており、いまやグローバル化の社会の中で新たな人権問題となっています。彼らに対する差別と偏見は根深く、少年たちが野宿生活者を襲う暴力事件も頻発しています。

○この街で一緒に ~あなたへのメッセージ~ Living Together

人権ってなあに—10 (障害者篇) (2004年) VHS・42分(カラー)

勝山 広子さん

趣味はカメラ。生まれつき視覚に障害があり、小・中・高と盲学校に通う。「花の学生生活を送りたい」という思いから、京都の短大、そしてアメリカ留学を経て、現在は大学の非常勤講師として教壇に立つ。

広田 和子さん

遅れた精神科医療からの生還者、精神医療サバイバーを名乗る。精神障害者に対する理解を深めるため、相談活動、講演、ラジオ DJ と多忙な日々を過ごす。厚労省の審議会の臨時審議委員も務める。

松田 美八重さん

医療事故によって今は車いすの生活。夫との出会い、出産、思い通りに行かない子育て…。いろいろな出会いや経験が財産だという。身体の障害を個性と考え絵を描き続ける集団、グループ完の事務局、そして厚木市の相談員も務める。

植村 牧場さん

奈良で最も古い植村牧場。知的障害がある青年たちが社会人として酪農作業に従事し、乳搾り、餌やり、びん詰め、配達等作業の全てを行う。20年の積み重ねの中で、今や植村牧場の牛乳はもちろん、青年たちも街の人気者である。